

氏 名	の ま しゅん いち 野 間 俊 一
学位(専攻分野)	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	論 医 博 第 1952 号
学位授与の日付	平 成 20 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	Psychosocial predictors of psychiatric disorders after living donor liver transplantation (生体肝移植後の精神障害に対する心理社会的予測因子)

論文調査委員 (主 査) 教 授 上 本 伸 二 教 授 小 杉 眞 司 教 授 坂 井 義 治

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】従来、生体肝移植術（LDLT）を施行された成人レシピエントは、しばしば手術前および手術後になんらかの精神障害を呈することが知られている。移植手術後に全身状態が良好にもかかわらず生じる精神障害は「逆説的精神障害」と呼ばれ、先行研究において、移植手術前の、自分の感情を言語化することができない傾向（アレキシサイミア）と関連していることが指摘されたが、検出が容易な心理社会的な予測因子は知られていない。また、生体肝移植手術後高頻度で認められるせん妄の発症も心理的に影響を受けることが推測されるが、この点についても不明なままである。そこで本研究では、生体肝移植術後に生じる精神障害を予測するために容易に検出しうるような、術前の心理社会的因子を調べた。

【方法】対象者は、2001年11月から2003年7月までの期間に、京都大学医学部附属病院において成人間の生体肝移植手術を施行された67名のレシピエントである。すべての対象者に移植手術直前に精神医学的面接を行い、同時に、バック抑うつ質問票（BDI）、状態・特性不安検査（STAI）、WHOクオリティ・オブ・ライフ26（WHOQOL-26）、移植候補者心理社会評価尺度（PACT）を施行した。また、全身状態は末期肝障害評価尺度（MELD）で点数化した。対象者は、移植手術後90日間、精神障害の発症の有無について週一度の精神科診察によってフォローアップされた。

【結果】これまでの既往、および生体肝移植手術の前後それぞれにおいて、3割から4割の成人レシピエントになんらかの精神障害が認められた。生体肝移植後の大うつ病性障害の発症は、「大うつ病性障害の既往」（ $p=0.003$ ）、「健康的なライフスタイルを維持することの困難さ」（ $p=0.004$ ）、「家族からのサポートの不安定さ」（ $p=0.013$ ）、「医療コンプライアンスの不良」（ $p=0.017$ ）と有意に関連していた。これらの因子は、術前の面接とPACTによって得られたものであり、術前の抑うつあるいは不安の評価尺度の項目の中では、「希死念慮」のみが大うつ病性障害発症と関連していた。また、生体肝移植後のせん妄の発症は、移植手術直前のせん妄の存在（ $p=0.008$ ）、および移植手術直前の全身状態の悪さ（ $p=0.017$ ）と有意に関連していた。

【考察】家族からのサポートが不安定であり、また、生体肝移植手術前に自分の健康状態への配慮が不十分なレシピエントは、移植手術後にうつ病になりやすい傾向があることが示唆され、その理由として、このようなレシピエントでは手術後の心身のストレスに十分に対処できないことが推測された。また、生体肝移植手術直前の全身状態が不良であるほど、移植手術後にせん妄が生じやすいことが確認された。生体肝移植手術前の精神面の評価法としては、質問紙による抑うつや不安の程度の把握よりも、病歴の詳細な聴取と、心理社会的側面の総合的評価を行なうPACTが有用であると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

一般に肝疾患患者には精神障害の合併が比較的多く、生体肝移植を受けた成人レシピエントは、術後の全身状態が良好であるにもかかわらず精神障害を呈することがあるが、そのような精神障害に対して検出が容易な心理社会的な予測因子は知られていない。そこで、本研究では生体肝移植後の精神障害の発症を予測する心理社会的因子を調べた。対象者は京都大学

医学部附属病院において成人間の生体肝移植が行われた67名である。すべての対象者に、術前の精神医学的面接および移植候補者心理社会評価尺度などの4種類の心理社会的状態評価を行い、術後90日間は精神科診察により精神障害の有無を確認した。

その結果、成人レシピエントの約4割に移植術前後に何らかの精神障害を認めた。術後の大うつ病性障害の発症は、大うつ病性障害の既往、健康的なライフスタイルを維持することの困難さ、家族からのサポートの不安定さ、医療コンプライアンスの不良、と有意に関連し、術後のせん妄の発症は、手術直前のせん妄の存在および全身状態の悪さと有意に関連していた。このことより、家族からのサポートが不安定であり、自分の健康状態への配慮が不十分なレシピエントは、術後にうつ病に罹患しやすく、術前の全身状態が不良であるほどせん妄が生じやすいことが確認された。そこで、生体肝移植手術前に、病歴を詳細に聴取して心理社会的側面を評価することの重要性が確認された。

今回の研究は、生体肝移植における精神医学的関与の重要性を示唆するものであり、本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認める。なお、本学位授与申請者は、平成20年1月21日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。